

11 月 2021

山に展望台, 街に人造動植物:ネパールの景観破壊

ネパールでは, 山や丘の上に展望台をつくったり, 道路わきや広場に人造動植物モニュメントを設置するのが流行っているという。観光客や買い物客を呼び寄せ, 村おこしや街活性化を図るのが目的だろうが, 自然・文化景観の観点からの反対も少なくない。

1. いくつかの事例

(1)山上の展望台

▼第 1 州:イラムの山の上に, 予算 8 千万ルピーで展望台建設予定。

▼第 3 州:12 の山の頂上に, 予算 1 億 8 千万ルピーで展望台建設予定。

▼ポカラ:「サランコット開発 5 年計画(予算 2 億 9 千万ルピー)」で市近郊にケーブルカー, 展望台, 公園, ヘリポート, 博物館, ホテルなどを設置予定。

[批判]

「連邦, 州, 地方自治体の権力亡者たちが, われわれの苦勞して働き納めた税金を, あちこちの山の上に無用な展望台を建てるとに浪費している。彼らのスローガンは, 『1つの丘に1つの展望台』。……惨めなカネの浪費というべきか, バカらしい嘲笑のタネというべきか。」(*1)

「サランコットからの景観は比類なきものなのに, 1千万ルピーもかけて, そこに展望台をつくるとは, まったく信じがたいことだ。」(*2)

「ネパールの山々は, もともと世界で最も高い山々だ。頂上からの景色は自然の絶景だ。それなのに, そこを 20 メートルばかり嵩上げすることに何の意味があるのか。そんなものではなく, これらの山々には, 公衆トイレ, 快適な宿, ゴミ処理施設など, もっと適切なものをつくるべきではないか。」(*1)



■[Kathmandu P, 2021/9/3](#)

(2)コンクリやプラスチックの人造動植物

▼各地の道路わきや広場:コンクリ(コンクリート)やプラスチックで, コブシや沙羅の木, 蓮の花, ニンニク, タマネギなどが造られ, 設置されている。

▼ウダイプル:コンクリ製のブタ(予算 600 万ルピー)。

▼モラン郡:世界最大のコンクリ製牝牛

[批判]

「中央政府や地方自治体の役人たちは、『観光振興』を名目に巨額の予算をつけ、交差点や公園にコンクリやプラスチックのレプリカを設置している。」(*3)

「村でも町でも新しいことが流行り始めた。交差点や公園などにコンクリやプラスチックの造形物を設置することだ。」(*3)

More 'trees' for less greenery: The 'concrete' irony in Nepal's cities

Ratna Khande
April 22, 2021



■ [onlinekhabar.com, 2021/4/21](https://onlinekhabar.com/2021/4/21)

(3)万里の長城

カトマンズ北方のヘランブでは、観光振興のため、60kmにも及ぶ巨大な人造壁の建設が計画されている。

[批判]

「コンクリ製の塔や神話上の人物、あるいは石造りの壁などを見に、わざわざ訪ネする観光客がいるとは思われない。」(*1)

2. 欧米や日本でも

山上の展望台や広場の人造モニュメントは、ネパールではいま急増し始めたばかりだが、欧米や日本では、はるか以前から設置されてきた。

たとえば、ヨーロッパ・アルプス。幾度かトレッキングに行き、急峻な山岳の迫力や山麓の絵のように美しい光景に魅了されたが、その一方、いたるところにケーブルカー、展望台など人造物が設置され、しかも景観とはそぐわない奇抜なデザインや色も少なくなく、いたく失望させられた。

たとえばモンブラン(モンテビアンコ)には、仏伊両国側から頂上近くまでケーブルカーで登り、その展望台から周囲を見回すことが出来る。が、それで何が得られるのか？

ケーブル終点の展望台は標高 3777mもの高所！ 観光客はすぐ高山病の症状に襲われ、寒さで震え上がる。見えるのは、相対的に——3777mも——低くなってしまった山々。氷河はあっても、山々の風景そのものは平凡。観光客は暖房の利いた軽食店や土産物屋に駆け込み、金を巻き上げられ、早々に、ケーブルカーに駆け戻り、下山することになる。



■ モンブラン・ロープウェイ

日本にも、そんな高山観光施設が、いくつもある。

が、山にしても地域にしても、有名なところは、まだました。悲惨なのが、そうでないところ。大金をかけ観光施設を設置しても、赤字垂れ流しで維持するか、さもなければ放置・荒廃、あるいは撤去だ。残るは、自然・文化景観の無残な破壊と赤字だけ。

そんなところが、日本中、いたるところにある。



■ 天橋立ビューランド / 三峯山展望台(長野県観光機構)

3. 先進国の景観破壊から学ぶべきこと

先進諸国の環境保護派・景観保護派は、自分たちの、これまでのすさまじい環境・景観破壊には頬かむりして途上国にお説教するくらいがあるが、彼らの主張そのものには耳を傾けるべきところも少なくない。

ネパールの人造構造物による山岳観光開発や地域振興も、いくつかは成功するかもしれないが、他の大部分は失敗し、無残な残骸と負債を残すだけとなるだろう。

先進諸国の失敗から学ぶべきことは、少なくない。

【参照1】ポカラのレジャーランド(2022/12/26)



【参照2】アンナプルナ山麓ケーブルカー建設計画 [Sikles in the Annapurna region will soon boast a cable car. What will be its impacts?](#), English Onlinekhabar, 2022/12/07



【参照3】

*1 “EDIFICE COMPLEX, We need more health posts, affordable medical care and quality schools. Not more statues of mythical figures, and view towers,” Editorial, Nepali Times, July 26, 2019

*2 “The decline in Nepali public aesthetics; Why are we spending millions on view towers on hilltops, where the view is already worthwhile?,” Kathmandu Post, September 3, 2021

*3 Rabindra Ghimire, “‘More trees’ for less greenery: The ‘concrete’ irony in Nepal’s cities,” english.onlinekhabar, April 21, 2021

*4 “Five-year master plan mooted for extensive development of Sarangkot,” Himalayan, Dec 16, 2017

*5 Umesh Pun, “Nepal’s tallest Shiva statue being built in Pokhara, expected to boost religious tourism,” Republica, November 9, 2020

*6 日々のネパール情報

▼ [ネパール各地で見られる、その土地の名産を模した像](#)

▼ [ネパールの巨大猫 | 新宿3D猫にネコに負けてないかも！](#)

▼ [ハッティチョウク、ガイダチョウク\(象の交差点とサイの交差点\) / チトワン・ソウラハ](#)

*7 Ramesh Kumar, [The land of the watchtower!](#), Himalkhabar, July 22, 2016

*8 [Still Rising Nepal](#), Nepali Times, 2022/04/01

*9 Ramesh Kumar, [Nepal’s shortsighted view-tower craze](#), Nepali Times, 2022/04/03

*10 [“How myopic they are: People in far-flung areas lack basic necessities, and they are building view towers,”](#) Editorial, Kathmandu Post, 2022/04/04

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2021/11/23 at 11:47

カテゴリー: [ネパール](#), [経済](#), [自然](#), [文化](#), [旅行](#)

Tagged with [アンナプルナ](#), [タワー](#), [ポカラ](#), [レジャーランド](#), [ロープウェイ](#), [登山](#), [遊園地](#), [自然破壊](#), [観光](#), [Kikles](#), [塔](#), [展望台](#), [景観](#)

免許証暗証番号, まったくの無用の長物

先日、運転免許証の更新があったので、暗証番号(パスワード)を無効化(ロック)してきた。3回目。

免許証の暗証番号は十数年前に導入されたものだが、少なくとも私は、この十年余、一度も入力求められることは無かった。他の人も同様であろう。まったくもって無用の長物！



■免許証サンプル(警視庁 HP)

1

運転免許証の暗証番号は、4桁数字2組。免許証の取得・更新時に各自設定した番号を印刷して渡され、「大切なものだから忘れないように」と警告される。

が、4桁数字2組の記憶はおよそ不可能だし、暗証番号用紙を持ち歩くのも危険だ。暗証番号設定は、設定に必要な経費だけでなく記憶・保存の点でも、負担が大きいのだ。

2

では、なぜそんな暗証番号の設定を強要するのか？

免許証には、氏名、生年月日、住所に加え、顔までも、鮮明に印刷されている。日常生活で身分証明用に免許証が多用されるのは、これらの情報確認のためであり、それで十分なのだ。

免許証を提示したうえで暗証番号の入力を求められることなど、特殊な場合を除き、まったく無い。

ところが、それにもかかわらず、暗証番号の設定が要求される。なぜか？

3

それは、免許証には「本籍」も電子情報として記録されており、これを守るために暗証番号が設定されているのだ。暗証番号は「本籍」表示のため。

しかしながら、これまで「本籍」確認のため免許証提示を求められたことなど、私には一度もない。他の人も同様であろう。免許証による「本籍」確認など、通常は行われていないし、そもそも不要なのだ。

そんなことは誰にも自明のことなのに、それでも止められない。没落日本らしい、なりゆき任せの事なかれ主義。

4

この免許証暗証番号に対し、取得者側が採りうる最も簡便で効果的と思われる対策は、暗証番号のロック(読取り不能化)だ。方法は簡単――

☆免許証の取得・更新後、ただちに近くの読取り機で誤番号を3回入力し、記録電子情報をロックする。

ただそれだけ。これで、少なくとも、4桁2組の暗証番号の記憶・保存の重圧からも、第三者による記載電子情報の盗み見の恐れからも解放されるだろう。

5

ちなみに、ネパールの運転免許証は、日本よりはるかに先進的らしい。ここしばらく訪ねていないので実情はよく分からないが、ネットで見ると、オンライン申請が可能。免許証取得対策アプリも、たくさんある。デジタル化で日本を追い越し始めたネパール、隔世の感を禁じ得ない。

The image shows a screenshot of the 'NEPAL ELECTRONIC DRIVING LICENSE AND VEHICLE REGISTRATION SYSTEM' website. The page is titled 'Government of Nepal, MINISTRY OF PHYSICAL INFRASTRUCTURE AND TRANSPORT, Directorate of Transport Management'. It features a 'Driving License' section with various input fields for personal and identification details. The fields include: BLOOD GROUP, CITIZENSHIP NO., PASSPORT NO., IDENTITY MARK, WITNESS FIRST NAME, WITNESS LAST NAME, TRAINER NAME, CITY, DISTRICT, COUNTRY, ADDRESS MOBILE NAME, ADDRESS RELATIONSHIP, TRAINER LICENSE NO., PERMANENT ADDRESS (with sub-fields for ZIP CODE, VILLAGE, TOLA, WARD NO., BLOCK NO., OFFICE CONTACT NO., and CONTACT NO.), and EMAIL. There are also dropdown menus for 'CITY', 'DISTRICT', 'COUNTRY', 'ADDRESS RELATIONSHIP', and 'CITY'. A 'Save and Continue' button is visible at the bottom right of the form.

■免許証オンライン申請書式



■IC 運転免許証

【参照】

* 1 [IC カード運転免許証と暗証番号を解説！暗証番号の役割や変更方法について](#) (カーライフ, 2019.05.15)

暗証番号を使う機会はほぼない

2 組の暗証番号がセットされている IC カード運転免許証ですが、現状では実際に日常生活で入力を求められることはほとんどありません。数少ない例外として、日本国内の米軍基地に入場する際に、2 組の暗証番号の入力が必ず求められます。

* 2 [大阪府警 IC カード運転免許証に関すること](#)

Q7 暗証番号は必ず設定しなければならないのですか。また、暗証番号を設定しない場合は、どうなるのですか。

暗証番号は、必ず設定しなければならないというものではありません。

しかし、設定しない場合は、IC チップの中の個人情報を他人に読み取られるおそれがありますので、できるだけ設定するようにしてください。

Q8 暗証番号を忘れた場合に、何か不都合はありますか。

運転免許の更新、再交付等の手続きに支障はありません。

* 3 [ネパールで運転免許証を更新したお話と交通事情](#) ライターmiyachika のネパール暮らし blog, 2017 年 12 月 15 日

* 4 [危険な IC 免許証, 暗証番号の無効化を](#)

* 5 [免許証暗証番号, 百害あって一利なし](#)

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2021/11/20 at 16:58

カテゴリ: [ネパール](#), [行政](#), [情報 IT](#)

Tagged with [デジタル化](#), [免許証](#)

紹介: 米澤穂信『王とサーカス』

タイトルに「ネパール」関係の語がないので見逃していたが、この本は、王族殺害事件(2001 年 6 月)で緊迫するカトマンズを舞台とするフィクション。文庫版で 472 頁もの大作であり、ミステリ分野で高く評価され、三つの賞を授賞している。

■米澤穂信『王とサーカス』東京創元社, 2015 年; 創元推理文庫, 2018 年

☆週刊文春「ミステリーベスト 10」2015 年, 第 1 位

☆早川書房「ミステリが読みたい！」2016 年, 第 1 位

☆宝島社「このミステリがすごい！」2016 年, 第 1 位



1. 梗概

文庫版カバー裏面の作品紹介：

「海外旅行特集の仕事を受け、太刀洗万智はネパールに向かった。現地で知り合った少年にガイドを頼み、穏やかな時間を過ごそうとしていた矢先、王宮で国王殺害事件が勃発する。太刀洗は早速取材を開始したが、そんな彼女を嘲笑うかのように、彼女の前にはひとつの死体が転がり…… 2001年に実際に起きた王宮事件を取り込んで描いた壮大なフィクション、米澤ミステリの記念碑的傑作。」

さらに詳しくは、下記ネット記事参照：

*「[王とサーカス](#)」ウィキペディア

2. コメント

この作品は、長編のわりには最後の「なぞ解き」部分が少々手薄な感じがするが、ネパールに関心をもつ私としては、王族殺害事件がらみのミステリとして、面白く読み通すことが出来た。特に興味深かったのは――

(1)カトマンズの街や日本人向けロッジの雰囲気、よく描かれている。王族殺害事件前後の頃は、たしかにそんな感じだった。

(2)この本のメインテーマは、王族殺害事件そのものではなく、その事件の――とりわけ外国メディアによる――報道の仕方の方にある。

太刀洗の取材に、王宮警備の国軍准尉はこう応える。「お前はサーカスの座長だ。お前の書くものはサーカスの演し物だ。我々の王の死は、とっておきのメインイベントというわけだ」。

ここで准尉は、サーカスの演し物のように、報道はより強い刺激を求める読者の期待に応えることを目的としているのか、記者の使命とはいったい何なのか、と問いかけている。本書のタイトルが「王とサーカス」となっている所以も、ここにある

このときは、太刀洗は、この真っ向からの問いに全く答えられなかった。その彼女が、彼女なりの答えにたどり着いたのは、王宮事件とは無関係の麻薬殺人を王宮事件絡みの暗殺特ダネとして報道することをすんでのところで免れたあとのことであった。物語の結末部分で、つまり謎解きがすべて終わった後で、太刀洗はこう語っている。

《「私は……」

仏陀の目が見降ろしている。

「ここがどういう場所なのか、わたしがいるのはどういう場所なのか、明らかにしたい」

BBC が伝え、NHK が伝えてなお、わたしが書く意味はそこにある。》(451 頁)

報道は、たしかにそのようなものかもしれない。が、そう思う一方、ハラハラ・ドキドキの長編ミステリの終え方としては、少々、物足りない感じがしないでもなかった。

(3)先進諸国のネパール援助の独善性・偽善性の告発。これは、幾度か、かなりストレートな形で出てくる。

サガル少年(太刀洗の現地ガイド)「よそ者が訳知り顔で俺たちは悲惨だと書いたから、俺たちはこの街で這いずりまわっている」。

———「外国の連中が来て、この国の赤ん坊が死んでいく現実を書き立てた。そうしたら金が落ちてきて、赤ん坊が死ななくなっただけ」「仕事もないのに、人間の数だけ増えたんだ。」「増えた子供たちが絨毯工場で働いていたら、またカメラを持ったやつが来て、こんな場所で働くのは悲惨だとわめきたてた。確かに悲惨だったさ。だから工場が止まった。それで兄貴は仕事をなくして、慣れない仕事をして死んだ」

先進国による無邪気な、善意のネパール貧困報道やネパール援助が、ネパールをさらに苦しめ悲惨にする——たしかに、そのような状況が、以前のネパールには、ときとして見られたことは認めざるをえない。忸怩たる思い。

【参照】

[ナラヤンヒティ王宮博物館、再訪](#)

[王宮博物館と中日米](#)

[王宮博物館の見所](#)

[CIAと日本外務省—王族殺害事件をめぐる](#)

[バブラム博士、茶番のようです](#)

[王制復古の提唱](#)

[国王の政治的発言、日本財団会長同行メディア会見](#)

[退位で王制継続勧告、米大使](#)

[ビシュヌの死](#)

[王室と軍と非公然権力の闇](#)

[日本大使館の王室批判禁止警告](#)

谷川昌幸(C)

Written by Tanigawa [編集](#)

2021/11/15 at 08:58

カテゴリ: [ネパール](#), [国王](#), [政治](#), [文化](#), [本](#)

Tagged with [ジャーナリズム](#), [ナラヤンヒティ](#), [ミステリ](#), [王とサーカス](#), [米澤穂信](#), [報道](#)